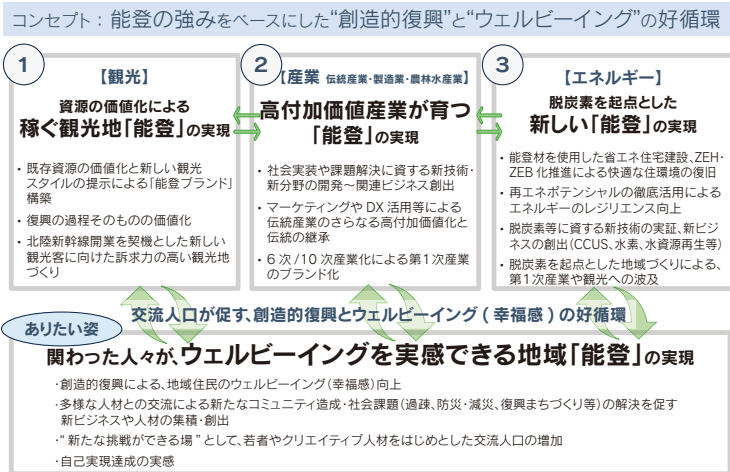


図表 【全体像】能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン



※ビジョンの全体は、北陸経済連合会ウェブサイト公表されています

能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン

—2035年を見据えた能登地域の創造的な復興に向けて

2024年元日に発生した令和6年能登半島地震は、石川県能登地方を中心に甚大な被害をもたらした。今回の地震では、生活基盤だけでなく、能登の地域経済を支える産業にも大きな影響が及んでいる。

今回の地震による被害を受けて、北陸経済連合会では、6月5日に「能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン」を公表した。能登は以前から、急激な人口減少による過疎化・高齢化が進む課題先進地域であったが、一方で、独自の風土・文化・地域の絆を大切にしながら、域内外との交流や豊富な資源を活用する動きが生まれつつあった地域でもある。本ビジョンは、生活基盤の確保や災害に強いまちづくりの構築、人々が持ち続けてきた「心の豊かさ」の継承を前提に、これまでの能登の歩みや強みを活かした創造的復興に向け、2035年頃を見据えた能登の将来ビジョンを産業面に特化して策定したものである。

北陸経済連合会会長

金井 豊

ゆたか



産業復興・再生ビジョン

本ビジョンでは、「能登の強みをベースにした『創造的復興』と『ウェルビーイング』の好循環」をコンセプトに掲げ、観光、産業、エネルギーの三つの分野を柱に、復興と再生に向けた取り組みを示した(図表)。

1. 観光—資源の価値化による、稼ぐ観光地「能登」の実現

まず「観光」では、資源の価値化による稼ぐ観光地「能登」の実現を目指すとしている。能登には、伝統産業、豊かな食材や景観、祭りや風土などの文化をはじめ、地域で守り育んできた有形無形の資源がある。こうした既存資源を価値化し、活用した新しい観光スタイルを提示することで、「能登ブランド」の構築につなげたい。

加えて、景観の修復や祭りの復活、担い手の思いなど、復興の道筋を可視化し、世界に向けて「能登の力」を発信したいと考えてい

る。こうした取り組みは、震災を教訓とする訪問にもつながるほか、研究者らの視察や教育旅行の受け入れを促す可能性もある。

また、北陸新幹線の敦賀延伸を契機に北陸を訪問する新たな顧客層に向け、訴求力の高いコンテンツの開発や地域づくりを進めていくことにより、観光を通じた交流人口の獲得、資源の高付加価値化、関連事業の育成を促すことができよう。

2. 産業—高付加価値産業が育つ「能登」の実現

続いて「産業」では、一定の集積があり稼ぐ産業となっている「伝統産業・製造業・農林水産業」に着目した。

今後、能登には、地域課題の解決に資する技術や人材が集まるだろう。これまでの能登がそうであったように、復興の過程で、域内外との交流や産学官金一体となった仕組みづくり、社会実装等が進めば、新たなビジネスも生み出されよう。

3. エネルギー—脱炭素を起点とした新しい「能登」の実現

第3に、「エネルギー」を新たな成長軸として据えている。能登は、世界農業遺産に認定された里山里海に代表される豊かな自然環境と、エネルギー供給地としてのポテンシャルを有する。今後、住環境の復旧から進めなければならぬ能登だからこそ、脱炭素を念頭においた新たな地域づくりに取り組み意義がある。取り組みが進むことで、エネルギーのレジリエンス強化や関連ビジネスの集積が促されるだけでなく、農林水産業や観光への波及・産品のブランド化、サステイナブルな地域としての訴求力向上等も期待される。

ありたい姿

これら三つの柱を基軸とした取り組みの先にある「ありたい姿」として、「関わった人々が、ウェルビーイングを実感できる地域『能登』の実現」を掲げた。

域内外の様々な世代・立場の人々との交流により前述した様々な取り組みが進むことで、創造的復興に近づくだけでなく、地域住民と能登の復興・再生に関わった人々双方のウェルビーイングの向上、能登への愛着や注目が増し、新たな交流を生む、といった、ウェルビーイングと復興の好循環を起こす地域を目指したい。これまで蓄積してきたネットワークや能登の資源を結集すれば、不可能な姿ではない。

「能登一体」の視点

くしくも今回の地震により「能登」は注目

を集め、人々に知られる言葉となった。これを奇貨として、本ビジョンの実現に向けては、「能登一体」の視点を大切にしたい。

陸・海・空の交通インフラやデジタル技術を活用することで、能登に思いを寄せる人々の知恵や技術を集めることができよう。また、能登を一つと捉えようと、この地域には、1次・2次・3次とそれぞれの産業がコンパクトにまとまっており、地域資源の多様性もある。能登に集まる豊富な人材・産業・地域資源の掛け合わせが起これば、復興・再生、さらには産業の強みにもなるはずだ。

当会は、すでに2030年代中頃のありたい姿として「スマート・リージョン北陸」という近未来を見据えたビジョンを掲げている。この中では、1人当たりGRP(Gross Regional Product:域内総生産)の向上と、ダイバーシティ&インクルージョンの二つを目標としている。能登の復興をこれらの目標実現の一つとして位置付け、能登が「スマート・リージョン北陸の先進地」となるよう、関係機関とも連携しながら具体的な取り組みにつなげていきたい。

最後に、本ビジョンの策定にあたり、被災された方々をはじめ域内外の多くの皆さまから貴重なご示唆をいただいた。特に十倉雅和会長をはじめ経団連の皆さまには、能登にも足を運んでいただくなど、発災当初より多大なご協力をいただいた。本誌面をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

本ビジョンが能登の未来に携わる全ての皆さまの参考になれば幸いです。